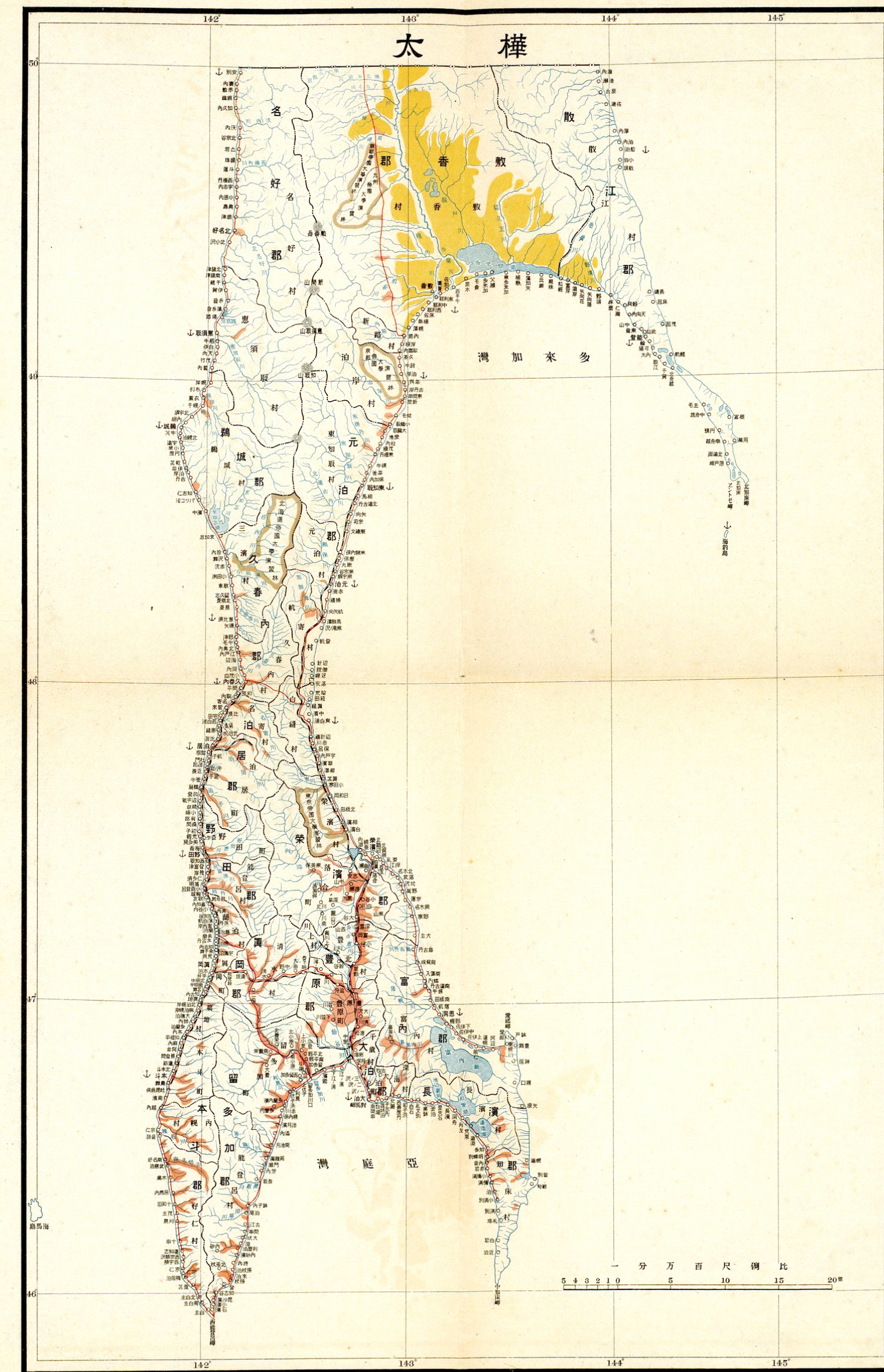


附属施設（演習林）が保有する大正昭和期の写真および大判図面のデジタルアーカイブズ化

東京大学デジタルアーカイブズ構築事業 農学生命科学研究科

大学院農学生命科学研究科附属演習林フィールドデータ研究センター

助教 藤原章雄



東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林画像データアーカイブズ「樺太地図（各帝国大学演習林の記載あり）」

演習林の歴史

東京大学演習林の始まりは、日本初の大学演習林として1894（明治27）年に房総半島に設置された**千葉演習林**であり、以来、東京大学の林学教育の場として現在に至る歴史を刻んでいます。千葉演習林に続いて、**北海道演習林**（1899（明治32）年）、**台湾演習林**（1902（明治35）年）、**朝鮮演習林**（1912（大正元）年）、**樺太演習林**（1914（大正3）年）、**秩父演習林**（1916（大正5）年）、**愛知演習林（現生態水文学研究所）**（1922（大正11）年）、**富士演習林（現富士癒しの森研究所）**（1925（大正14）年）、**樹芸研究所**（1943（昭和18）年）が次々と設置され、亜寒帯から亜熱帯まで、海岸から亜高山帯までの森林における教育研究の場として活用されてきました。第二次世界大戦後、外地に設置された演習林は東京大学の手を離れましたが、戦後の1956（昭和31）年に演習林に管理委嘱された**田無試験地（現田無演習林）**（1929（昭和4）年林学科に設置、1982（昭和57）年演習林に用地を移管）をあわせ、東京大学農学部キャンパス内に設置された企画部を中心に北海道から愛知県までの広い範囲に7地方演習林を有する体制が現在まで続いています。

デジタルアーカイブズ構築事業による継続した取り組み 演習林画像データアーカイブズ

東京大学附属演習林画像データアーカイブズ

検索



東京大学演習林は、126年を超える研究と教育の歴史を有しています。その研究・教育活動の過程で、写真、大判図面、動植物標本など、さまざまな資料が蓄積されてきました。遠隔地の地方演習林に所蔵されてきたこれらの資料は、主に演習林内の研究者によって、これまでさまざまに活用されてきましたが、演習林外にはそれらの存在自体があまり知られていませんでした。

演習林では、各方面からの支援をいただきつつ、これらの資料を順次デジタル化し、「演習林画像データアーカイブズ」として広く公開することによって、研究領域を超えて今後の研究・教育に活用していきたいと考えています。今後、デジタル化作業を少しずつ進めてゆき、順次、公開をしてゆく予定です。

下記のリストは、デジタル化作業を終えて公開している「演習林画像データアーカイブズ」のサイトです。クリックしてご利用ください。

北海道演習林：

- [北海道演習林デジタルアーカイブズ](#)

千葉演習林：

- [千葉演習林所蔵 1922～1990年に採集された維管束植物標本画像データベース](#)
- [千葉演習林所蔵大判資料群データベース](#)
- [千葉演習林所蔵写真紙画像データベース](#)

- 2019
 - 研究室・附属施設が保有する画像資料のデジタルアーカイブズ化
- 2020
 - 附属施設（演習林）が保有する大判図面のデジタルアーカイブズ化
- 2021年以降毎年
 - 附属施設（演習林）が保有する明治大正期の写真および大判図面のデジタルアーカイブズ化
- 今後も継続希望

未整理の図面や写真，歴史的価値を有する文書などがまだまだ大量に存在している

<https://electra.lib.a.u-tokyo.ac.jp/utf/>



東京大学演習林は、126年を超える研究と教育の歴史を有しています。その研究・教育活動の過程で、写真、大判図面、動植物標本など、さまざまな資料が蓄積されてきました。遠隔地の地方演習林に所蔵されてきたこれらの資料は、主に演習林内の研究者によって、これまでさまざまに活用されてきましたが、演習林外にはそれらの存在自体があまり知られていませんでした。

演習林では、各方面からの支援をいただきつつ、これらの資料を順次デジタル化し、「演習林画像データアーカイブズ」として広く公開することによって、研究領域を超えて今後の研究・教育に活用していきたいと考えています。今後、デジタル化作業を少しずつ進めてゆき、順次、公開をしてゆく予定です。

下記のリストは、デジタル化作業を終えて公開している「演習林画像データアーカイブズ」のサイトです。クリックしてご利用ください。

北海道演習林：

- [北海道演習林デジタルアーカイブズ](#)

千葉演習林：

- [千葉演習林所蔵 1922～1990年に採集された維管束植物標本画像データベース](#)
- [千葉演習林所蔵大判資料群データベース](#)
- [千葉演習林所蔵写真帖画像データベース](#)
- [千葉演習林所蔵モウソウチク開花周期実証試験地画像データベース](#)

秩父演習林：

- [秩父演習林デジタルアーカイブズ](#)

田無演習林：

- [田無演習林デジタルアーカイブズ](#)



北海道演習林デジタルアーカイブズでは下記の画像データを公開しています。

大判図面および関連の書類など（86点）

1920年代から1950年代に作成されたもので、東京大学（帝国大学、東京帝国大学）北海道演習林における、農地改革による林内植民への農地解放、森林火災による被害、発電所・森林軌道・官舎等のインフラ整備、官行斫伐・立木処分等をあらわしたものです。

写真画像（66点）

1960年代から1980年代にかけての北海道演習林の森林や森林管理の様子を記録した写真画像です。

これら資料について、今回のデジタル化を機に活用と調査が進むことを期待しています。



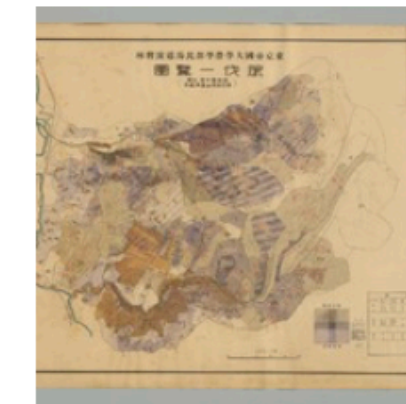
立木位置図(昭和三年七月測量)



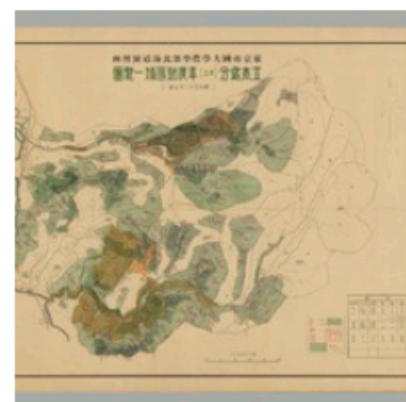
森林火災被害一覧図(明治四十四年以降)



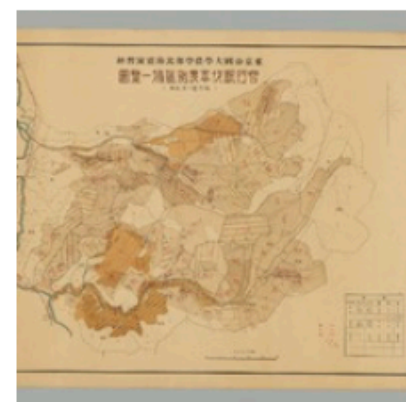
斫伐一覧図(明治四十年以降 官行斫伐並立木処分)下書き



斫伐一覧図(明治四十年以降 官行斫伐並立木処分)



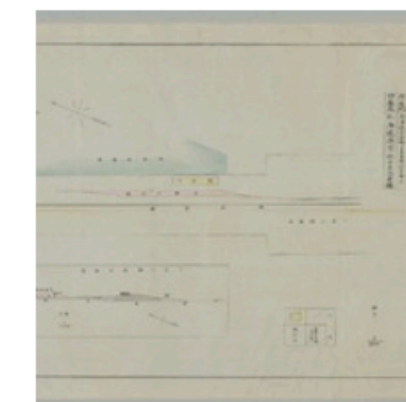
立木処分(立木)年度別区域



官行斫伐年度別区域 隣図



平達右軌道位置図(平達右不



平達右軌道位置図(平達右不



北海道演習林写真画像

アイテムセット

タイトル

北海道演習林写真画像

内容記述 / Description

1960年代から1980年代にかけての北海道演習林の森林や森林管理の様子を記録した写真画像です。

作成者 / Creator

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

アイテム

2 of 3



26-50 of 66

詳細検索

登録日

降順

並び替え

台湾演習林 鹿谷庄内樹皮溪頭湖 海拔1210m面積0.78haスギ樹齢20年大正4年3月植栽
樹高：最大23.1m平均19.69m胸高直径：最大38.5cm平均24.2cm本数984本/ha材積458.875
m³ 昭和10年5月撮影

北海道演習林写真画像



全羅南道演習林 求禮郡旨面稷田奥椎茸栽培柾場

北海道演習林写真画像





本データベースでは、東京大学千葉演習林で所蔵している大型の紙図面を公開しています。
公開している資料は、大きく分けて4つのグループに区分できます。

(1) 林業大判教材 (全201点)

この大判の図面群は、東京大学（帝国大学、東京帝国大学）で林学の講義において教材として掲示して使われていたと思われる、木材の伐採搬出や治山治水などの技術・道具・機械を図示したものです。複数の原典があるようですが、ドイツや日本の手法や道具が詳細に描かれています。

リトグラフ（版画の一種）が中心でそれなりの数が印刷されたと思われ、数カ所で類似資料が保管されているとのことですが、千葉演習林の本資料は点数が多いのが特徴です。ただし、教材として使用されなくなって久しく、図面のついでの説明文がなく内容を整理把握してあるわけではありません。

多くに「農科大学図書」の印が押されています。東京帝国大学農科大学が東京帝国大学農学部に改組されたのが1919年（大正8年）ですから、主としてそれ以前に制作されたものと考えられます。明治20年代の制作ではないかとも推測されているようです。

(2) 『木曾式伐木運材図会』類似図 (全10点)

この資料は、豊富な森林資源を伐採利用して優良な木材を生産していた飛騨地方で江戸時代末期に行われていた、「木曾式」の木材の伐採搬出・川流し・海運の様子を活写し説明している長大な絵図面です。現代人からすると劇的な作業の光景が繰り広げられています。

確実な由来は判明していませんが、江戸時代末期に現場での取材を基に執筆された『官材画譜』という書籍（当時は刊行には至らず）が元になっているという説が有力のようです。その上で、明治時代に2巻セットの絵巻物として制作され直したと思われま

す。少しずつ異なるバージョンが千葉演習林のものを含めて6セット確認されているとのこと、有名なものとしては、国有林・中部森林管理局が所蔵する『木曾式伐木運材図会』が「林業遺産」に選定されています。他のセットでは各巻が『官材伐出之圖』『官材川下之圖』と題されているとのことですが、千葉演習林が所蔵しているものは10枚に分割された形で額装されており、全体のタイトルは記されていません。通常はそのうち6枚を、千葉演習林の森林博物資料館に展示しています。

(3) 近代林業解説絵図 (全3点)

(2) ともし少し似ていますが、森林の伐採や川流しの各工程を全13図で示してあります。それに説明文が付属しており、図面内の各ポイントを詳細説明しています。

資源識別子 / Identifier https://electra.lib.a.u-tokyo.ac.jp/utcbf/jpeg/ringyo/01_0001.jpg

Identifier

権利管理 / Rights <https://fpac1.lib.a.u-tokyo.ac.jp/utcbf/largedrawings/rights>

別の記録形式を持つ / [manifest](#)

Has Format [mirador](#)

[uv](#)

アイテムセット [千葉演習林林業大判教材](#)



林業大判教材_ツル付伐木法

林業大判教材_ツル付伐木法



>> MORE INFORMATION

About the item

Description

附属演習林デジタルアーカイブズ

Attribution

東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林 The University of Tokyo Chiba Forest, Graduate School of Agricultural... [MORE](#)

License

<https://electra.lib.a.u-tokyo.ac.jp/utcbf/rights>



千葉縣下演習林明治四十一年五月

アイテムセット

タイトル

千葉縣下演習林明治四十一年五月

内容記述／Description

1907年（明治40年）頃の写真を収めた写真集です。当時の浜尾新総長や松井直吉農科大学学長の千葉演習林視察の様子を中心にしたもので、本学として貴重な資料です。同時に、千葉演習林（当時は千葉縣下演習林などと呼ばれていました）の主要施設である清澄派出所（現在の清澄作業所）やその周辺地域、二夕間川に沿って新設された林道（現在の本沢林道）開設工事の様子、郷台道（現在の郷台林道付近）・郷台苗畑やその周辺の育苗や実習風景などを包括的に含んでおり、20世紀初頭の森林・農村景観の実相も伝える貴重な資料です。

作成者／Creator

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

日付

1908-05

権利管理／Rights

https://electra.lib.a.u-tokyo.ac.jp/omekaS/s/utcbf_photo/page/rights

アイテム

1

of 1



1-21 of 21

詳細検索

登録日

降順

並び替え

奥山字四郎治澤の大樟樹

1908-05



郷墓畑段丘側に新植したる杉林（総長及び学長一行）



>> MORE INFORMATION

About the item

Description

明治三十五年の新植にして平均目通直径四寸幹長三間

Attribution

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 The University of Tokyo Forest, Graduate School of Agricultural and Life... [MORE](#)

License

https://electra.lib.a.u-tokyo.ac.jp/omekaS/s/utcbf_photo/page/rights



アーカイブズ構築事業の実施体制

■ 農学部附属図書館

- サーバーの管理 物理サーバの維持管理, OmekaSのセットアップとメンテナンスなど

■ 附属演習林

- 対象資料の整理（地方演習林） 状態の確認, ナンバリング, 属性データの入力など
- スキャニング（業者） 画像ファイル納品
- サイト構築（弥生） 画像ファイル編集, メタデータ作成, OmekaSへのアップロード, サイト構築など



地方演習林

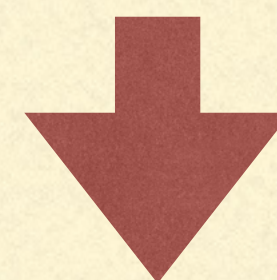
千葉演習林 The University of Tokyo Chiba Forest	北海道演習林 The University of Tokyo Hokkaido Forest
秩父演習林 The University of Tokyo Chichibu Forest	田無演習林 The University of Tokyo Tanashi Forest
生態水文学研究所 Ecohydrology Research Institute	富士癒しの森研究所 Fuji Iyashinomori Woodland Study Center
樹芸研究所 Arboricultural Research Institute	

センター

教育・社会連携センター Education and Extension Center	フィールドデータ研究センター Field Data Research Center
---	--

課題 不足していると感じていること

- **OmekaSへアップロードするファイルの準備**
 - 属性データ作成におけるメタデータ標準の理解, ピラミッドタイルTIFFやmanifestなどIIIF周りのノウハウ, キーワードなどの充実
- **OmekaSのサイト作成**
 - サイトのUIデザイン, コレクションの構造の見直し, メタデータ連携, データの修正などのノウハウ
- **ライセンス**
 - 画像の二次利用条件の整理 (組織内のオープンデータへの理解と啓蒙), 利用者の利便性を考慮した情報提供方法 (CCの活用)
- **状態の悪い資料の補修**
 - 現状調査と計画策定のできる専門性を有した人材と予算
- **整理した元資料の保管と活用**
 - 現状地方演習林任せ。保管庫, 目録データベースなど



歴史的資料も含む学術資料を大量に保有する利用施設として, 資料の管理と活用 (アナログ, デジタル両方) に関する専門性を有した人材を保有することや学内の組織との連携が重要
